

# 中学校校庭に立つパネルは 地域復興のシンボル!

ひっぽ電力

50kW



原発事故による放射能汚染の影響で、県境をこえた宮城県丸森町筆甫（ひっぽ）地区でも農業に深刻な風評被害をもたらしました。「震災以前から農林産物の価格低迷などで農村は疲弊した状態でした。そこに降りかかった今回の事故。ここは南相馬市民185人の避難所ともなったんです。だから、福島の方々の苦しみは痛いほどわかる。原発に依存しないエネルギーづくりは、復興支援であるとともに地域再生そのものなんです」と、ひっぽ電力代表の目黒忠七さん。廃校の校庭に出力約50kWの太陽光発電所を建設し、2017年5月から発電産地に仲間入り。「呼びかけに応じてくれた筆甫の住民など、計約50人の資金協力と寄付金約1100万円で太陽光発電所1号基は完成しました。私たちの電気は住民みんなで作り上げた市民電力なんです」（目黒さん）